

開会セッション各参加者の発言の要点

※暫定版にて、実際の発言が優先される。

	<p><u>コンゴ(民)</u> チセケディ大統領</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2030年までにアフリカにおける飢餓ゼロを目指す。 ● 5歳未満の子どもの慢性的な栄養不良を2030年までに42%から33%に引き下げ。
	<p><u>バングラデシュ</u> ハシナ首相</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナが栄養施策に影響する中、栄養の国際目標達成に向けた対応が喫緊の課題。 ● 12のマルチセクター・コミットメントへの取組を進める。
	<p><u>東ティモール</u> ルアク首相</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 脆弱層の栄養改善は政府の最優先課題。2030年までに発育阻害を25%以下に、消耗症を3%以下に引下げ。最大3700万米ドルを拠出。 ● データに基づく進捗確認により確実に成果を上げる。
	<p><u>エルサルバドル</u> ブケレ大統領夫人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養サミット開催及び招待に感謝。 ● 持続可能な食料システムに向けた取組を強化。 ● 母乳保育の増進、5歳未満の栄養不良・貧血・肥満の減少、低出生体重児の減少にコミット。
	<p><u>国連</u> グテーレス事務総長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界における飢餓、食料不安、不健康な食生活が課題。栄養価の高い安全な食品が必要。 ● 東京栄養サミットを通じた栄養政策の改善及びプログラムの推進を評価。
	<p><u>世銀</u> マルパス総裁</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本政府のIDA増資会合開催及び栄養に関する信託基金に感謝。栄養が人的資本の基盤。 ● 栄養不良の二重負荷は中長期的な成長と持続可能な開発の課題。
	<p><u>WHO</u> テドロス事務局長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養サミットへの招待及び日本からアフリカへのワクチン供与に感謝。栄養サミットはグローバルな栄養目標の達成に重要。 ● 過体重・肥満、急性栄養不良、貧血、母乳育児等の分野での取組を推進。
	<p><u>UNICEF</u> フォア事務局長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養改善に関する日本の支援及びワクチン供与に感謝。 ● 子どもの食生活改善のために24億ドルを拠出。 ● 子どもの栄養失調改善のためのプログラムを実施。WHOとの連携強化
	<p><u>FAO</u> チュー事務局長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 重要なサミットの開催に感謝。より強靱で持続可能な農業が健全な食生活と栄養改善に不可欠。 ● 新型コロナによって多くの人々の健康的な食生活が危機的状況。安全で栄養価の高い食料生産が必要。